

我が国の大豆の需給動向等について



2025年11月11日



大臣官房 新事業・食品産業部 食品製造課

1 日本の大豆需給について



(unit:1,000MT)

	2021	2022	2023	2024	2025F(a)	2025 ^(b) (Jan/Sep)
Demand	3,493	3,778	3,558	3,496	3,563	-
Crushing	2,414	2,695	2,453	2,376	2,414	1,905 (107.7)
for Food	998	999	1,029	1,045	1,076	- -
for Feed	82	83	77	75	73	- -
Export	0	0	0	0	0	0 (201.0)
Supply	3,425	3,680	3,335	3,369	3,564	- -
Crop	219	247	243	261	252	- -
Import	3,271	3,503	3,156	3,171	3,380	2,434 (103.0)
USA	2,482	2,576	2,168	2,084	-	1,630 (103.5)
Brazil	495	597	646	741	-	521 (99.4)
Canada	272	309	324	330	-	269 (107.6)
China	19	19	18	17	-	15 (106.6)
Others	2	2	0	0	-	0 (108.3)
Loss	▲ 65	▲ 70	▲ 63	▲ 63	▲ 68	- -
Ending Stocks^(c)	212	226	138	195	-	- -

(a) forecast as of July 2025

(b) () : ratios to the same period in the previous year (%)

(c) ending stocks of oil companies only(reference data)

2 日本の大豆ミールの需給について



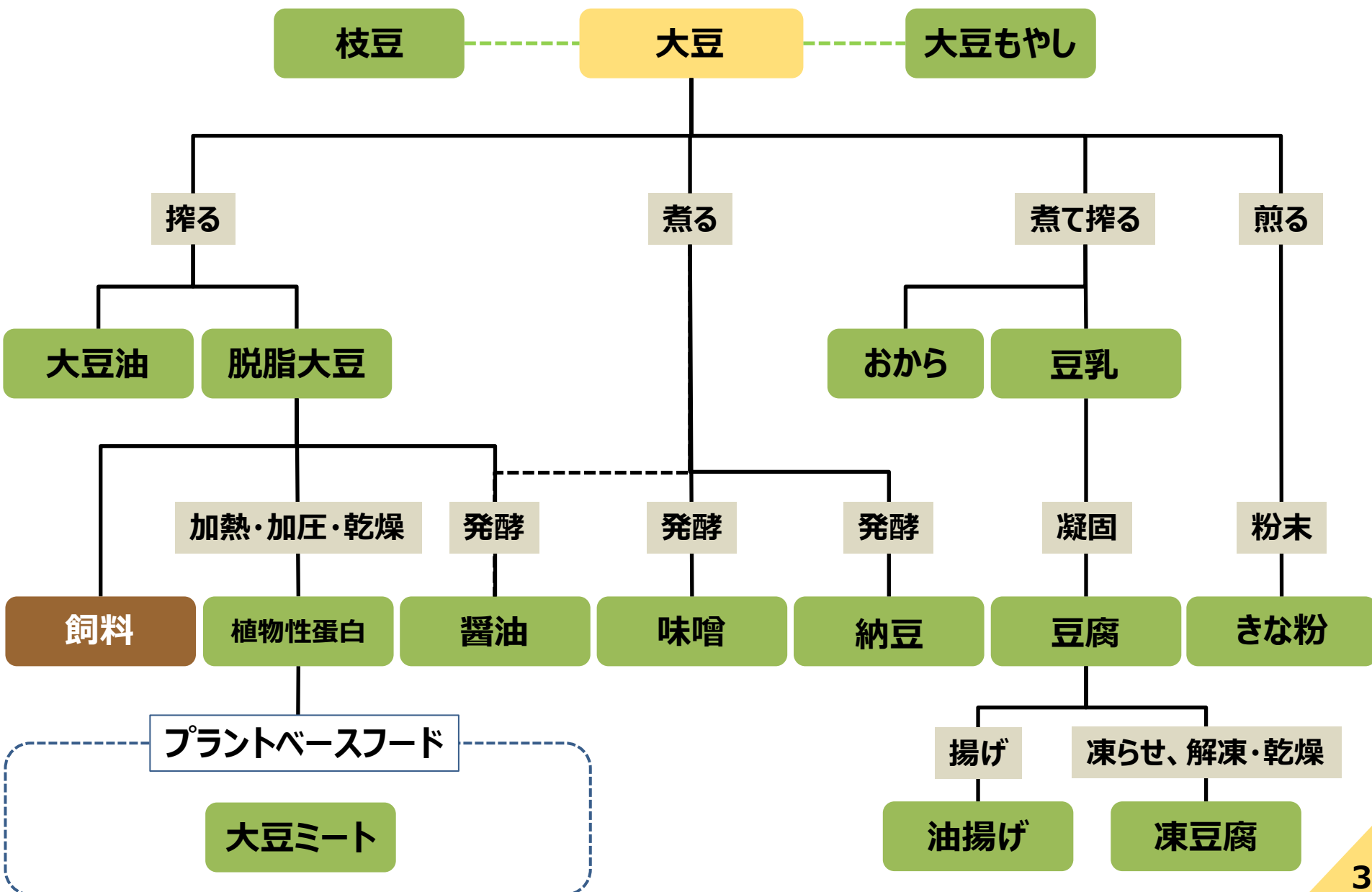
(unit:1,000MT)

	2021	2022	2023	2024	2025F(a)	2025 ^(b) (Jan/Sep)
Demand	3,555	3,525	3,512	3,399	3,397	- -
for Feed	3,092	3,097	3,077	3,048	3,048	- -
for Others	462	427	435	350	349	- -
Export	1	0	0	1	0	0 (91.1)
Supply	3,653	3,631	3,611	3,508	3,506	- -
Open'g Stocks	106	99	107	99	109	- -
Production	1,817	2,017	1,844	1,778	1,806	1,438 (108.6)
Import	1,730	1,516	1,660	1,631	1,591	1,225 (95.5)
Ending Stocks	99	107	99	109	109	- -

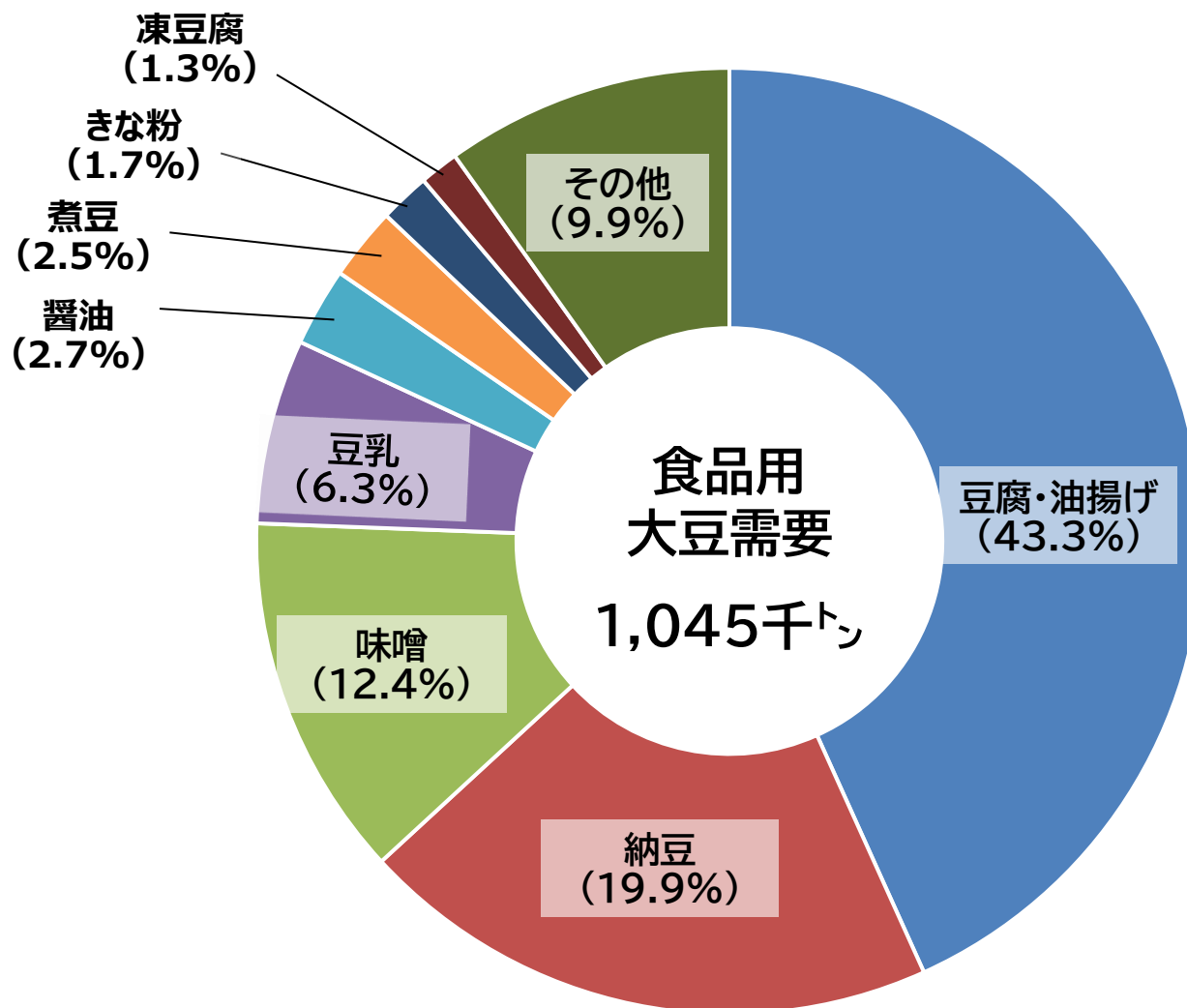
(a) forecast as of July 2025

(b) () : ratios to the same period in the previous year (%)

3 大豆の加工用途



4 大豆の加工品向け需要シェア（2024年）

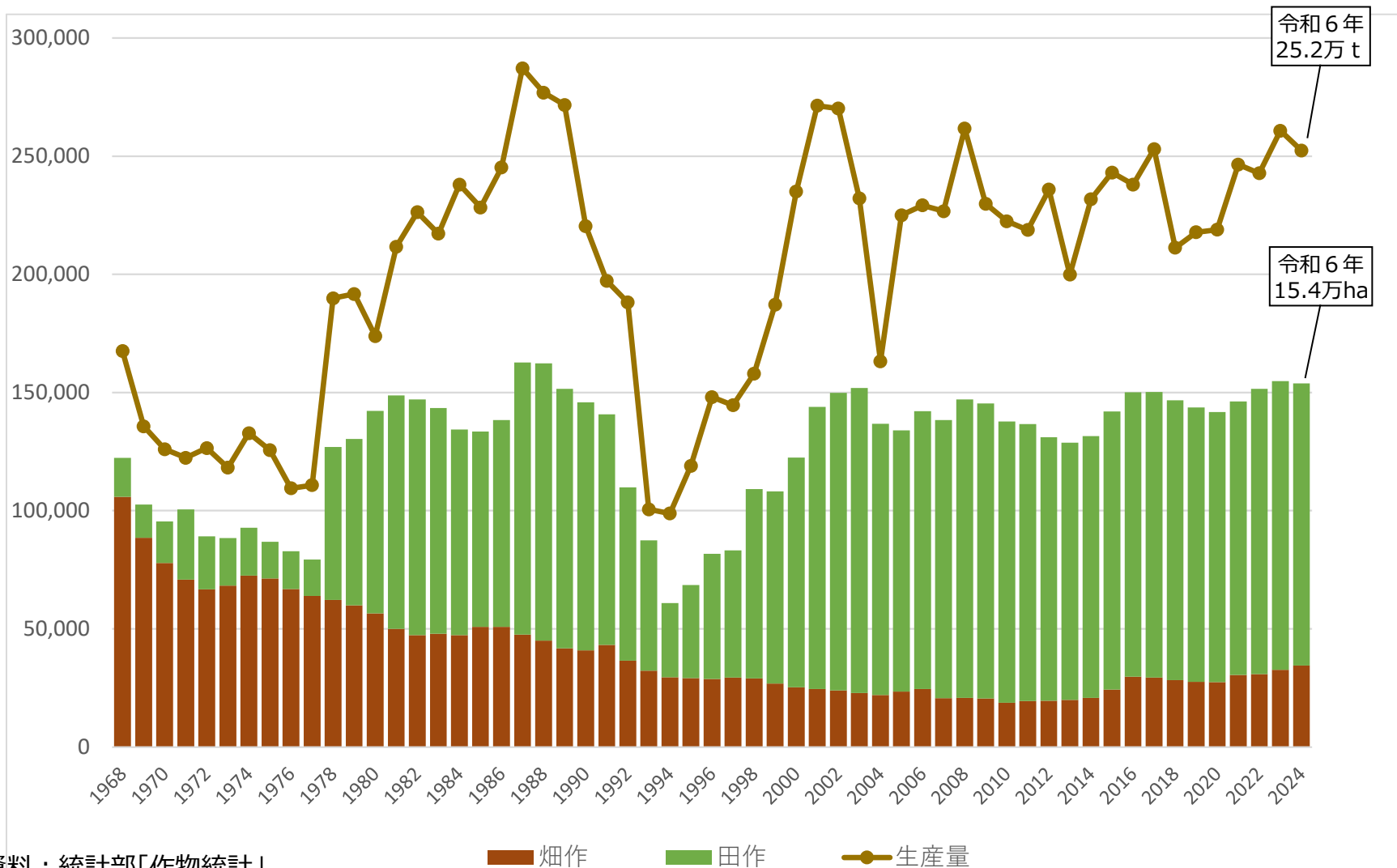


※ 団体からの聞き取り等を基に食品製造課にて推計

5 国産大豆の生産量及び作付面積

■ 国産大豆の生産量・作付面積（田畑別）の推移

（単位：ha、㍑）



資料：統計部「作物統計」

（昭和59年までの畑作面積は、田畑計から田作を除いた値）

6 食品用途に求められる大豆の特性・品質

■ 用途別に求められる特性・品質

豆腐

<求められる特性>

➢ タンパク質含有量が多い ➢ 炭水化物含有量が多い

<代表的な品種銘柄>

➢ とよまさり ➢ フクユタカ ➢ 里のほほえみ



煮豆

<求められる特性>

➢ 外観がよく大粒

<代表的な品種銘柄>

➢ とよまさり ➢ 光黒 ➢ 丹波黒



納豆

<求められる特性>

➢ 粒揃いがよい ➢ 裂皮が少ない

<代表的な品種銘柄>

➢ とよまさり ➢ ユキシズカ ➢ フクユタカ



味噌

<求められる特性>

➢ 蒸煮した際の色調がよい

<代表的な品種銘柄>

➢ とよまさり ➢ フクユタカ ➢ リュウホウ



■ 各業界共通で求める大豆の品質、大豆製品の販売傾向

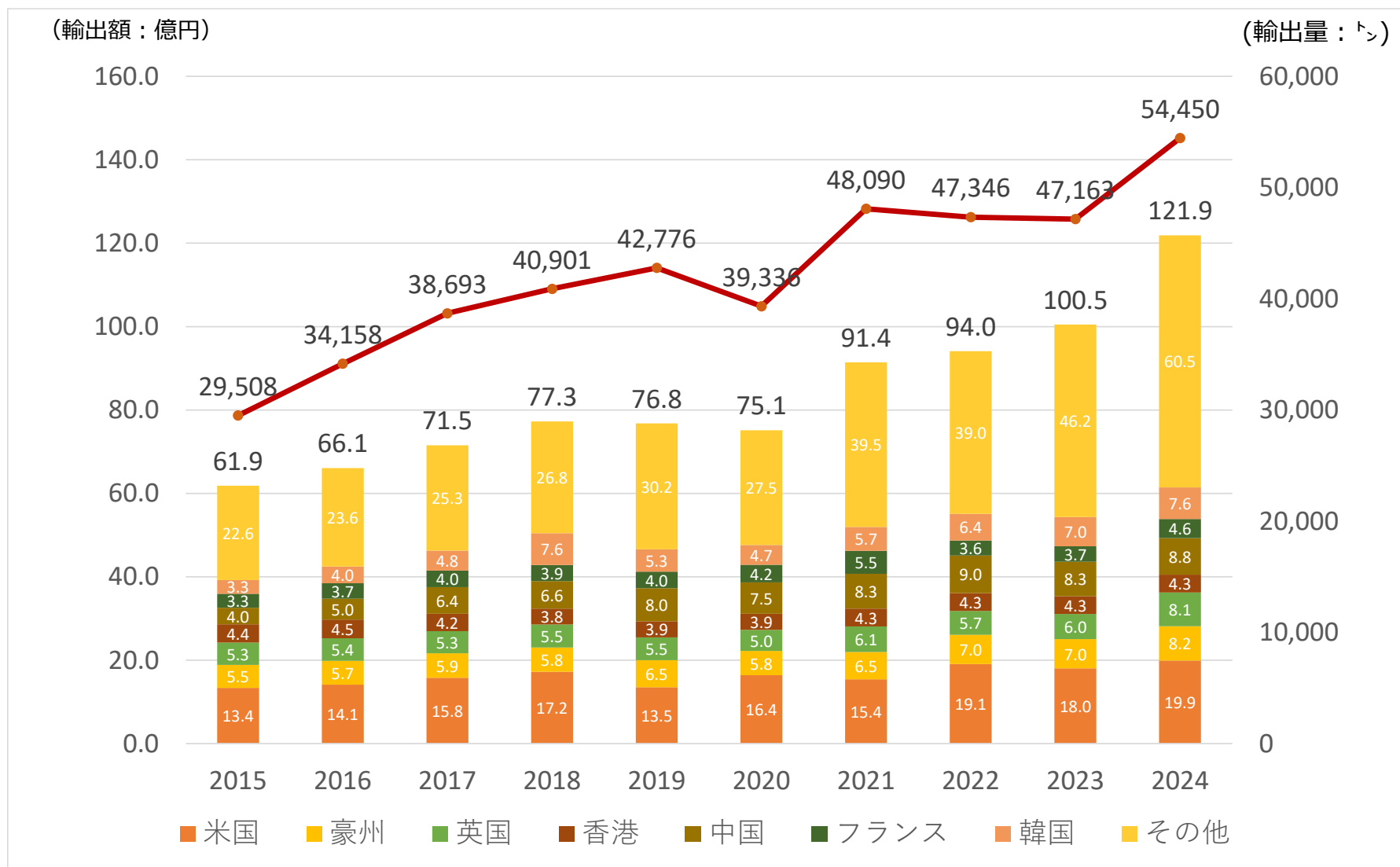
<求められる特性>

➢ 品質・価格が安定していること ➢ 有機栽培等更に価値を付加したもの

<販売傾向>

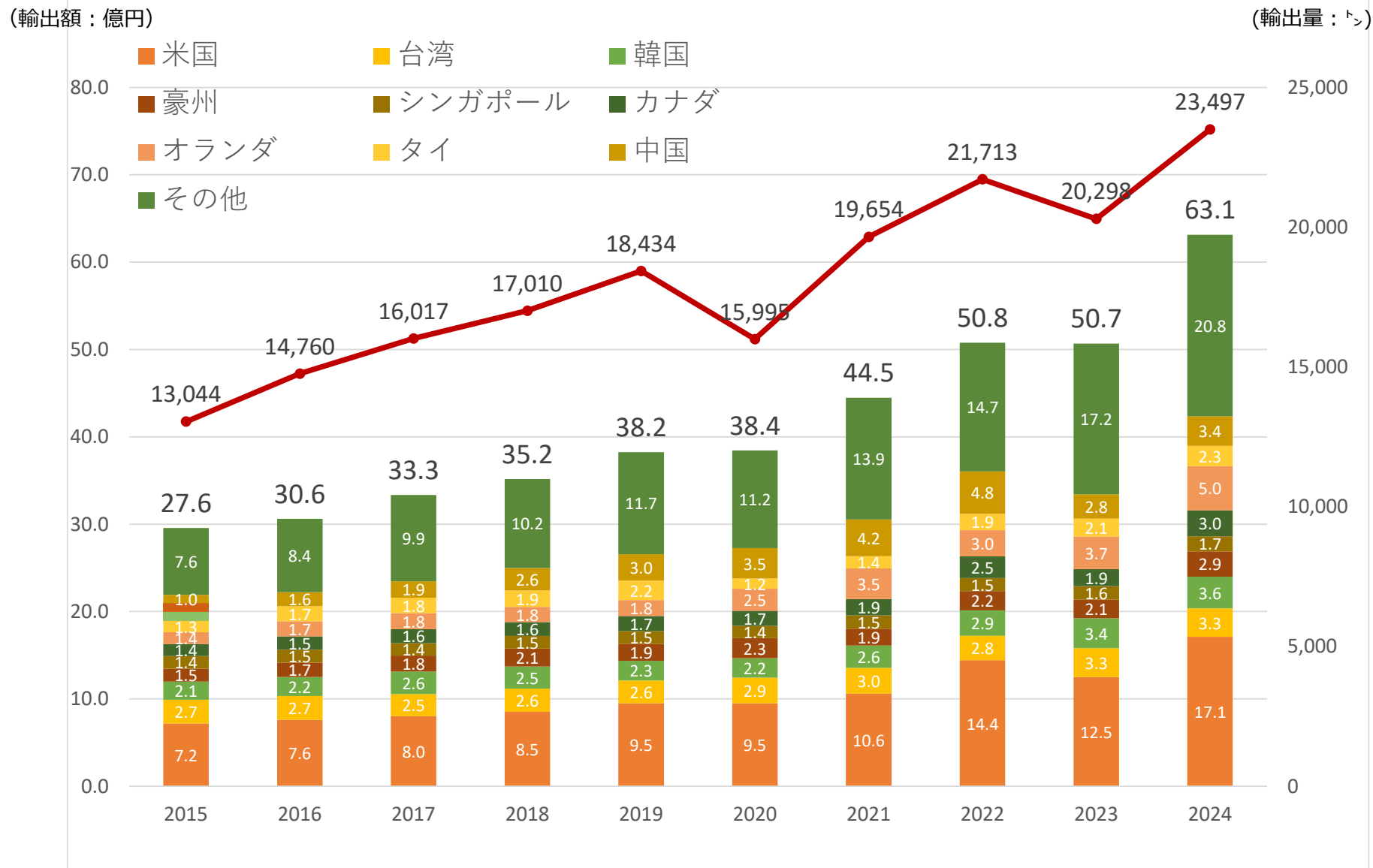
➢ 消費者ニーズへの対応のため、国産使用は増加傾向 ➢ 地大豆製品を活用した町おこしの例もある
➢ 健康志向の高まりから大豆製品の需要が拡大傾向

7 醤油の輸出量及び輸出額（国別）



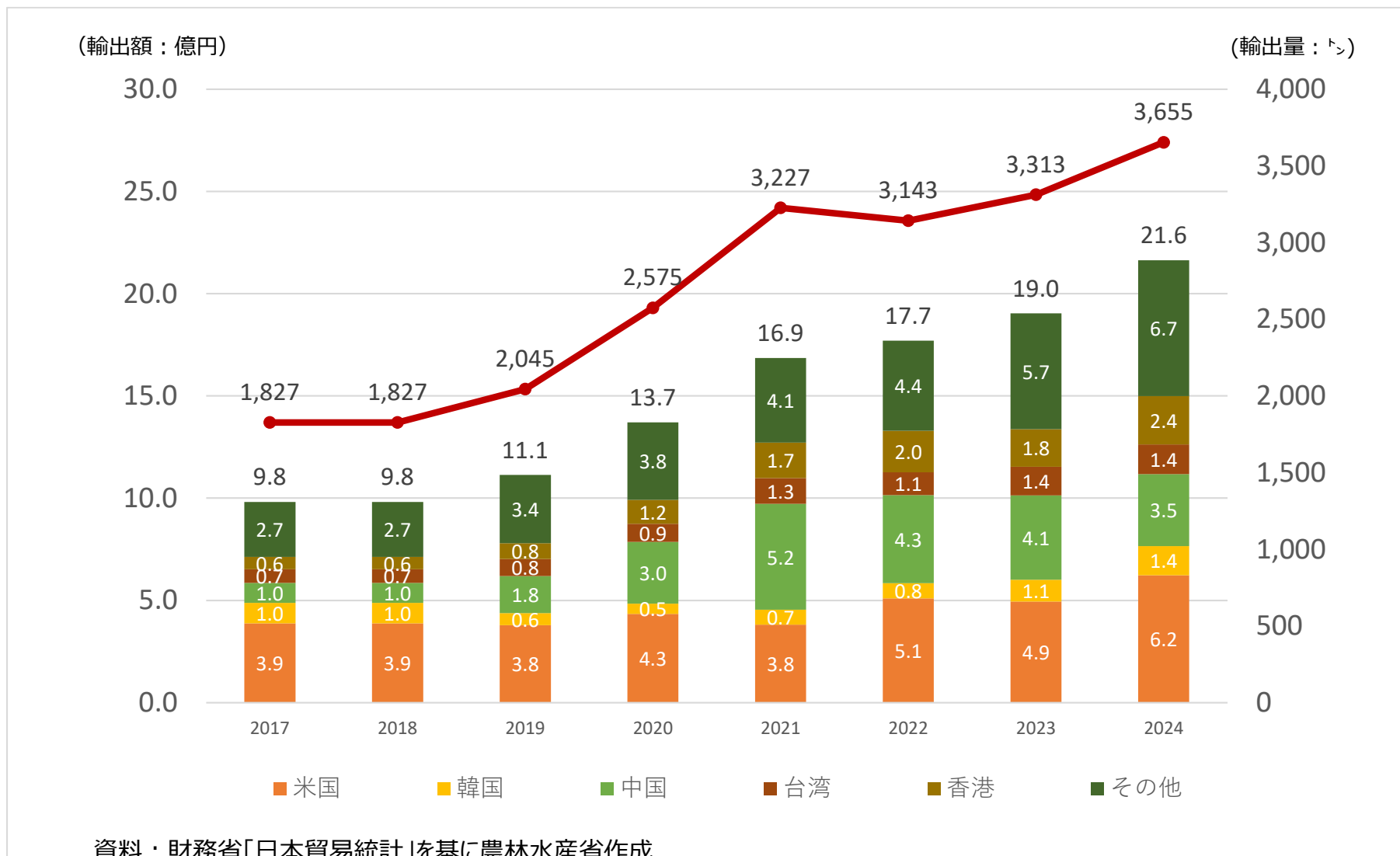
資料：財務省「日本貿易統計」を基に農林水産省作成

8 味噌の輸出量及び輸出額（国別）



資料：財務省「日本貿易統計」を基に農林水産省作成

9 納豆の輸出量及び輸出額（国別）



10 第52回 全国醤油品評会

日本醤油協会主催

目的：高品位の醤油を顕彰することにより、醤油の品質向上及び表示の適正化を図り、消費者に良質の醤油を提供し、併せて業界の健全な発展に寄与する。

開催歴：1973年度から開催

品 種：こいくち、うすくち、たまり、さいしこみ、しろ

表 彰：農林水産大臣賞
大臣官房長賞
優秀賞

特 徴：・10月1日の醤油の日のイベント「醤油の日の集い」に合わせて、表彰式を開催。
・大臣賞受賞品は、受賞者の醤油製造への思いや工程を映像としてとりまとめ、会場で放映するなど広く紹介。



<https://www.soyssauce.or.jp/fair>



第52回（2025年10月1日表彰式）

■ 農林水産大臣賞



ヤマカノ醸造(株)
(宮城)
純正



(有)今野醸造
(宮城)
吟醸



(資) 山形屋商店
(福島)
ヤマブン本醸造特選醤油



ちば醤油(株)
(千葉)
味特しょうゆ



ヤマシン醸造(株)
(愛知)
さしみたま



11 第65回 全国味噌鑑評会 一般社団法人中央味噌研究所 主催

目的：味噌の品質向上を目指し、技術の研鑽を図ることを目的とし、消費者の認識を深めて食生活の向上と味噌醸造技術の健全な発展に寄与する。

開催歴：1955年度から開催

表彰：農林水産大臣賞
農林水産省大臣官房長賞
全国味噌工業協同組合連合会会長賞
一般社団法人中央味噌研究所理事長賞
全国味噌鑑評会審査長賞

第65回（2024.11.21 表彰式）

■ 農林水産大臣賞



12 第9回 全国豆腐品評会 一般財団法人全国豆腐連合会 主催

目的：日本の豆腐の更なる製造技術と品質の向上を目指し、豆腐製造事業者の研鑽の場とするとともに、豆腐業界の振興・発展並びに国民の健康増進に寄与することを目的とする。

開催歴：2016年度から開催

部門：木綿、絹ごし、寄せ/おぼろ、充填

表彰：農林水産大臣賞、大臣官房長賞ほか

特徴：「ニッポン豆腐屋サミット」に合わせて表彰式を開催（今年は香川県で開催）



審査風景（東京都）

第9回（2025.11.2 表彰式）

■ 最優秀賞（農林水産大臣賞）



「特選よせとうふ」
(株) とうふ工房ゆう（東京都）

■ アメリカ大豆サスティナビリティ アンバサダーアワード



「なめらか絹とうふ」
三好食品工業株式会社（福岡県）

<https://tofuaward.jp/>

13 第28回 全国納豆鑑評会 全国納豆協同組合連合会 主催

目 的：納豆の製造技術の改善と品質の向上を目指し、
衛生的で美味しい納豆を提供するとともに、国民
の健康増進に寄与することを目的とする。

開催歴：1995年度から

部 門：小粒・極小粒、大粒・中粒、
ひきわり、アメリカ大豆

表 彰：農林水産大臣賞、大臣官房長賞ほか

第28回（2024.11.22 審査会）

■ 最優秀賞（農林水産大臣賞）



「みのり納豆 ほのか」
有限会社 ミドリヤ（福島県）



審査風景（大阪府）

■ アメリカ大豆サスティナビリティ アンバサダーアワード



「からしも旨い納豆」
株式会社 カジノヤ（東京都）

■ SSGA U.S. Award



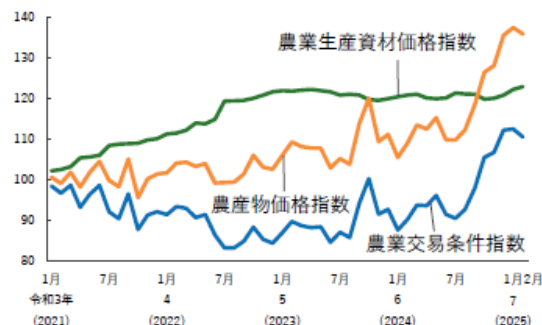
「仙台納豆」
株式会社 三浦商店（千葉県）

14-1 【トピック】 合理的な費用を考慮した価格形成と持続的な食料システムの確立を一体的に検討

- 農業生産資材価格指数は、2021年以降、肥料や飼料等の価格高騰により上昇し、2023年以降は横ばい傾向で高止まり
- 一方、農産物価格指数は、2021年以降、ほぼ横ばいで推移していたが、2024年後半以降、米や野菜等の価格が大きく上昇したことを受け、農業交易条件指数とともに上昇基調で推移
- 合理的な価格形成の仕組みづくりには、生産から消費に至る食料システム全体で費用を考慮した取引を行っていくことが重要。2023年8月に食料システムの各段階の関係者を構成員とする「適正な価格形成に関する協議会」を立ち上げ、議論を開始
- また、食料の持続的な供給を実現するためには、費用を考慮した価格形成を促すだけでなく、食品事業者による付加価値向上の取組を促進していくことが重要。2023年8月に「食品産業の持続的な発展に向けた検討会」を立ち上げ、議論を開始
- 農林水産省では、同協議会及び同検討会での議論を踏まえ、合理的な費用を考慮した価格形成と持続的な食料システムの確立を一体的に検討

合理的な費用を考慮した価格形成と持続的な食料システムの確立の一体的な検討

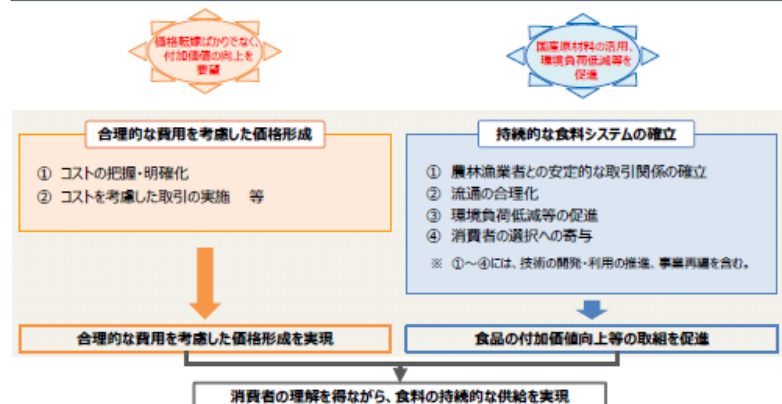
農業生産資材及び農産物の価格指数と農業交易条件指数



資料：農林水産省「農業物価統計調査」

- 注：1) 令和2(2020)年の平均価格を100とした各年各月の数値
2) 令和6(2024)、7(2025)年は概数値
3) 農業交易条件指数=農産物価格指数÷農業生産資材価格指数
4) 農業交易条件指数は令和2(2020)年の平均値を100とした

- 合理的な費用を考慮した価格形成に関する議論では、単にコスト上昇による価格転嫁を促すばかりでなく、国産原材料の活用や、有機農産物等を通じた環境負荷の抑制等により、付加価値の向上を併せて促進することを求める声。
- このため、合理的な費用を考慮した価格形成と、持続的な食料システムの確立を一体の取組として併せて検討。



資料：農林水産省作成

14-2

・食料の持続的な供給を実現するための法律(食料システム法)が成立 ・消費者の理解醸成に向けた取組を推進



- 「食品等の流通の合理化及び取引の適正化に関する法律及び卸売市場法の一部を改正する法律」が令和7年（2025年）6月に成立
- 同法は、目的規定に食料システムにおける食品等事業者の役割等を明記するとともに、

(1) 食品産業の持続的な発展を図るため、

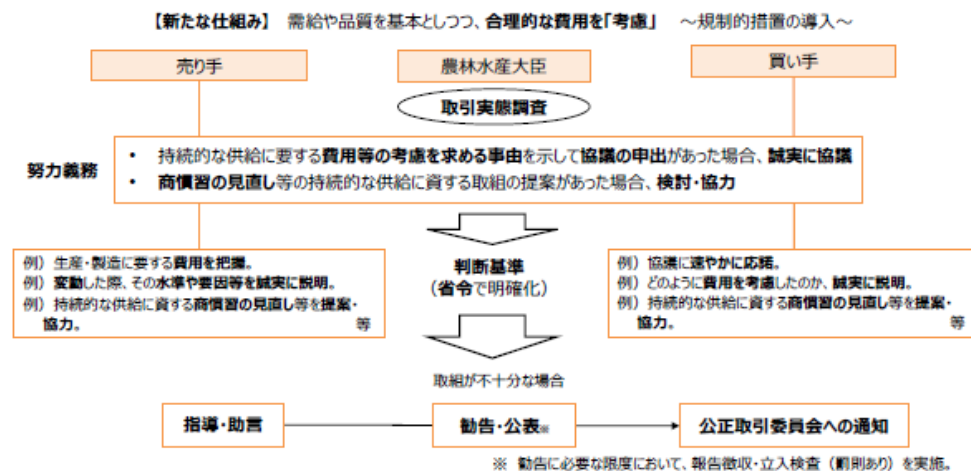
- ✓ 農林水産業と食品産業との連携強化、環境負荷低減等に計画的に取り組む食品等事業者の認定制度の創設
- ✓ 認定を受けた計画に対する金融支援、税制特例

(2) 費用を考慮した価格形成を図るため、

- ✓ 売り手と買い手の努力義務の措置と努力義務についての行動規範の策定
- ✓ 取組が不十分な場合、農林水産大臣による、指導・助言、勧告・公表(公正取引委員会への通知)
- ✓ 取引において、通常、費用について認識しにくい品目の指定、コスト指標作成団体の認定

等の措置を講ずることを規定

取引の適正化のための具体的措置



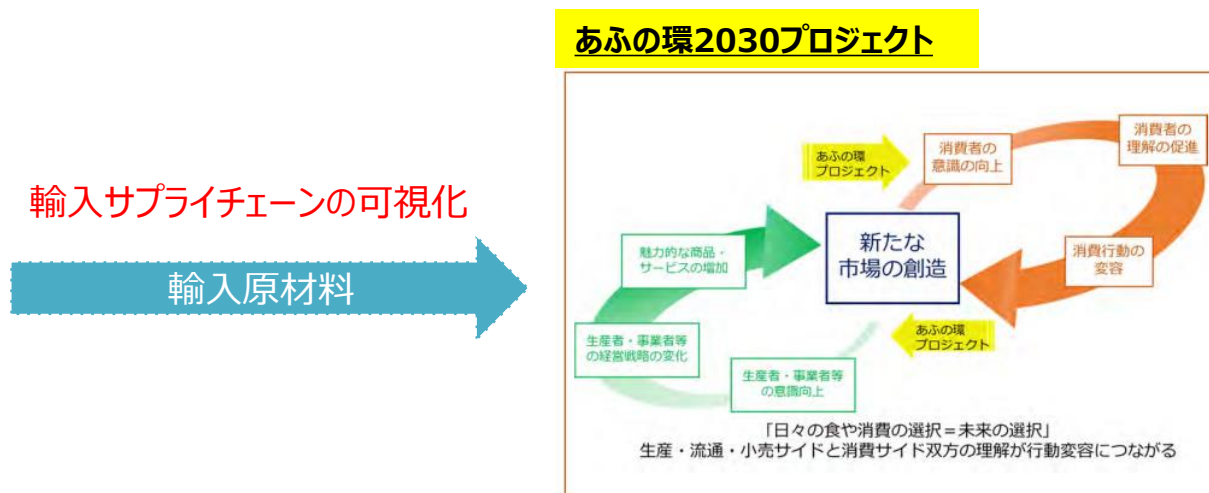
資料：農林水産省作成

- 食料の価格形成に対する消費者理解を醸成するため、生産等の現場の実情やコスト高騰の背景等を分かりやすく伝えるための広報活動「フェアプライスプロジェクト」を継続して実施

15 今後の方向

- ✓ 将来の世代に食資源と快適な環境を継承していくためには、気候変動や生物多様性の喪失など、自然環境を取り巻く様々な課題に目を向ける必要があります。
- ✓ 消費者が健全な環境で生産された製品を選択できるようにするためには、健全で環境に配慮した活動の価値を可視化する必要があります。
- ✓ 健全で持続可能なシステムは、個々の活動だけでは実現できません。そのため、一つ一つの良い活動がフードチェーン全体で繋がっていく必要があります。
- ✓ 農林水産省は、食と農業の持続可能性の実現、価値の可視化、環境に配慮した消費の促進に取り組む企業・団体のプロジェクト「あふの環（わ）2030プロジェクト～食と農林水産業のサステナビリティを考える～」に取り組んでいます。

(https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/being_sustainable/sustainable2030.html)



ビジネス部門と消費者の相互作用で行動変容を強化



ご清聴ありがとうございました